

研修会の総括

日本私立短期大学協会
広報委員会
委員長 鳴 海 渉

9月6・7日、東京渋谷にある実践女子大学・実践女子大学短期大学部をお借りして「変革期に求められるスキル（能力）について考える入試広報担当者SD研修」と題して5日の事前研修を含め99短期大学112名の参加者を得て研修会を開催することができました。

今回の研修会にあたって実践女子学園理事長の井原徹様、女子栄養大学広報戦略室次長兼入試広報課長の伊吹憲昭様、富山短期大学入試広報課長の小比賀誠様、㈱さんぽう・大学情報センター長の柴崎修様からご講演並びに実績報告等をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、短期大学は「建学の精神」のもと戦後の高度成長を支えた「子女の教育」から地域に根ざした『「短期」に「経済的」に学び「学位」が授与される大学・高等教育機関』として発展してまいりましたが、4年制大学移行等に伴い最盛期598校あった短期大学は、本年度には314校(公立17校除く)と半減、更に少子化の進展により2040年には18歳人口も100万人に減少の一途を辿ることが確実視され、喫緊の対応策が求められています。

そのため本委員会では「短期大学」についてこれまで以上に知っていただく必要があるとして高校生等に親しみやすいホームページづくりに着手してまいりました。「短期大学とは何なのか。」「何のために、どのような資格が得られるのか」などの手引としてHP「短大・クエスチョン」を作成し、本年5月から公開しました。受験生は勿論のこと、進路指導の先生、保護者の方々にも認識して頂く、更に、短期大学の教職員も認識し高校訪問等を行う必要があることから10月下旬に全国の高等学校等にPRを含めパンフレットとともに解説書とし本協会の研究図書である「短期大学教育」の送付をしたところです。

こうした一連の流れを合わせ「短期大学」の広報に直接携われている方々を対象に、自短大で役立つ体験型の「SD研修プログラム」について講習、研修を行うこととしました。全国の短期大学の新しい取り組みや事例を知り、自らに合った内容に置き換えられる総合的募集活動力の修得を目的とした研修です。また、大学入職3年未満の方に向けた分科会等も同時開催しました。募集活動における基礎的知識や思考方法を学べる場として限られた時間、資源を持って研修した結果は、別添の部会報告のとおりです。また、その研修会の評価もありのまま掲載させていただきました。限られた時間で講習、研修するのは容易くはありませんでしたが、ネットワーク作りも含めて実りのある研修会であったことを報告いたします。現場で自己研鑽するとともに繰り返し研修を積み重ねることで成長します。今後とも私立短期大学は必要とされています。短期に、経済的に、高等教育を受け、学位を取得したいという学生のニーズに応えるためにも互いに力を合わせて頑張り続ける必要があります。

最後になりましたが、また、分科会や全体研修、情報交換会を手際よく受講いただきました参加者の皆様お疲れ様でした。更に研修会講師をつとめていただきました委員の皆様方にも重ねて御礼申し上げます、報告とさせていただきます。

研修会の実施状況について



実践女子大 1階ロビー



事前研修会 (9/5 希望者のみ)



大学内見学会(図書館)



全体会の模様 (9/6 開講式)



昼食タイム。和気あいあい。



情報交換会は全員参加。



分科会研修 (9/7 開催)



分科会研修のまとめ (最終発表)